

科目名		授業形態	担当教員名	
言語学 I		講義	水口 志乃扶	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
言語はコミュニケーションのための大切な道具であり、また言語には人間が思考や感覚を表現する機能がある。本講義では人間が使う言語を客観的に観察する姿勢を学び、言語学の基本的な概念を学習し、実際にことばを分析する能力を育成することを目標とする。				
授業の到達目標				
(1) ことばを客観的に観察する能力を身に付ける。(2) 言語を分析する方法論を学ぶ。(3) ことばが実際に分析できるようになる。(4) ことばを通して人間を洞察する視点を作る。				
授業計画				
回	内容			
1	「ことば」とは			
2	音の構造① 音声・音韻			
3	音の構造② 音節と音節構造			
4	音の構造③ アクセント			
5	音の構造④ イントネーションとプロミネンス			
6	文字と表記① 漢字・仮名			
7	文字と表記② 表記法			
8	語の構造① 単語と語構成			
9	語の構造② 意味			
10	語の構造③ 語形成と造語法			
11	語の構造④ 語種			
12	語の構造④ 形態素のまとめ			
13	言語学総論① 言語とその働き			
14	言語学総論② 日本語とその変遷			
15	復習			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%			
レポート				
小テスト	50%	課題 (授業で指示) の合算		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
日本語概説	沖森卓也 編		朝倉書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
日本語音声学入門	斎藤純男		大修館書店	
よくわかる言語学	定延利之		アルク	
自由記載				
備考				
いつも当たり前のように使っていることばを客観的に観察することは慣れるのに案外時間がかかります。しかしことばは人間に必須なものであり、その表し方も一通りではないことに気づき、人間の言語能力とは何かを考えてみましょう。新発見の連続です。				